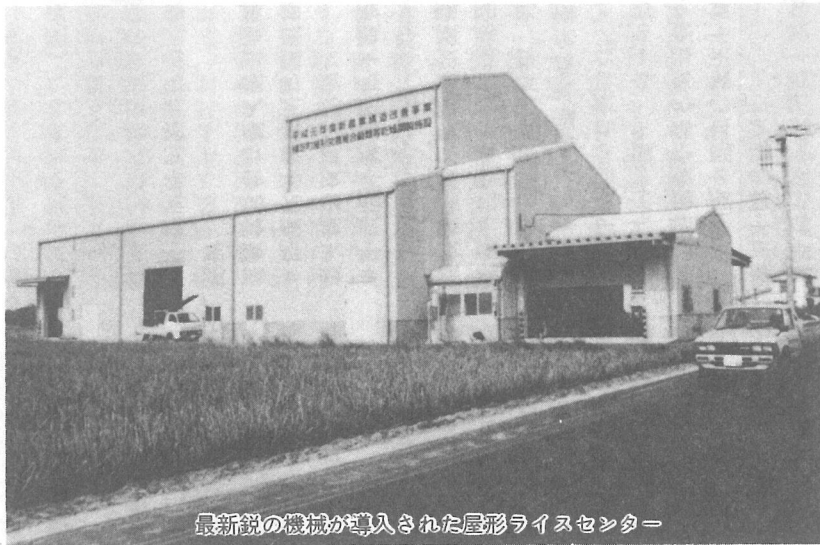


“核”完成

屋形ライスセンター



最新鋭の機械が導入された屋形ライスセンター

8月22日(木)、屋形営農組合ライスセンター(穀類等乾燥調製施設)が完成し竣工式が行われました。

屋形地区に完成したこの施設は、新農業構造改善事業の一つとして平成元・二年度の二ヶ年にわたって建設されたものです。

センターの建築面積は、一

〇四三平方メートル、総事業費は約二億六千七百万円。

処理能力は、面積にして百ヘクタール、収量で約八千四百俵、一日当たりで約七ヘクタールのもみを処理できます。

規模的にも近隣市町村に類をみない最新鋭のものです。

業務は、もみの荷受け作業から乾燥調製、もみすり、玄

米を袋詰めにして出荷するまで、大型機械により自動的に処理しますので大幅に省力化されています。

この施設を利用することによって得られた余剰労働力を他の農作業に投入することができますので、これからの農業経営の核になるものと期待されています。



1時間当たり10トンの荷受が可能です

荷受設備



荷受前に病害虫がないか調べます

事務処理はすべてコンピュー



荷受したもみはコンピュータで処理を

事務処理・操作盤

ターを使用した一環体系で、もみ重量、水分、自主検査結果を各組合員ごとに整理・精算を行い、荷受けから乾燥までボタン一つで操作します。

多くの人に利用を



屋形営農組合長 海保 恵一さん (南)

町や関係機関のお骨折りにより近代的な施設が完成し、組合員一同大変喜んで

います。

協同作業によって省力化が図れますので、より多くの人に利用していただきたいと思えます。

組合員の自主運営が基本ですが、今年初めての年ということで役員が交替で作業を担当して参りましたが、人手は少なくてすみますが、オペレーターの問題は今後の課題ですね。